

2012年7月18日

**プレスリリース**

本資料は7月18日にチューリッヒで発表されたプレスリリースの翻訳版です

2012年第2四半期業績： 税引前利益 11億スイス・フラン (CHF)、株主に帰属するベース純利益 8億 CHF および株主資本利益率 9%

2013年末目標の経費削減目標 20億 CHF を 2012年上半期中に達成し、さらに経費削減目標を 30億 CHF に引き上げる

即時に行う複数の資本対策による追加額 87億 CHF を含む追加資本は 153億 CHF で、規制資本基盤で業界トップの地位にあることを確認

- 2012年末目標のルックスルーのスイス国内コア資本比率 9.4%\* (2018年末目標の要件は 10%)
- 2012年末目標のルックスルーのスイス国内総資本比率 10.8%\* (最新の SNB 金融安定性報告書による 2012年第1四半期における 5.9% と大まかに比較可能)
- 強制偶発転換型証券 (MACCS) の発行 38億 CHF 等の措置を含む
- 資本対策のおよそ 80%は株主の権利を希薄化しない

\*比率の定義については、4頁の「資本管理の概要」をご参照ください。

クレディ・スイス・グループは、2012年7月18日、2012年第2四半期業績、バーゼル3の規制要件対応への準備に向けて効率性を高める措置および資本基盤を強化する措置を発表しました。

取締役会会長のウルス・ローナーは、次のように述べています。「絶対的な資本の強さは、当グループにとって極めて重要です。現在の環境を考慮して、2012年のスイス国立銀行 (SNB) の金融安定性報告書 (Financial Stability Report) に提起された疑念を払拭する形で、当社の資本計画の実施を前倒しすることを決定しました。業界最高レベルの資本基盤を基に堅調な利益を上げる事業を背景に、クレディ・スイスは当社の顧客に最高のサービスを提供し、当社の株主に対しクラスに応じた最高のリターンを提供する能力をさらに向上させると確信しています。」

最高経営責任者（CEO）のブレディ・ドゥーガンは、当四半期業績について次のように述べています。

「当社の第2四半期の業績は、当社の事業モデルの強さとそれを新しい環境へ適応させるために行った変更のプラスの影響を浮き彫りにしています。第1四半期は、当社が小康状態の市場においても高い利益を上げることが可能であることを示しましたが、第2四半期は当社の事業モデルがより厳しい状況の下でも回復力があることを示しています。当社の事業モデルはサイクルを上回る15%超の株主資本収益率を計上すると確信しています。」

さらに、次のように続けました。「経費の節減と資本規律により、当モデルが将来に挙げる効果を確保することができます。今年前半に、当社の20億CHFの経費削減目標値を18ヶ月早く達成し、さらに2013年度末の目標値を30億CHFに引き上げました。これにより、かなりの程度、経営上の柔軟性を生むことができます。バーゼル3に準拠した事業モデルへ向けて当社が成し遂げた成果（2011年第3四半期比でリスク加重資産残高650億CHFの削減を含む）により、業界が避けて通れない新しい環境への移行に関して当社は有利な立場に立っています。このため、当社の顧客に対して一貫したサービスを提供し、より安定した利益を上げることが可能です。」

また、資本強化措置については、次のように述べています。「本日発表した資本強化措置は、当社の収益還元力に対する問題を払拭するものです。今年末目標の9.4%というルックスルーのスイス国内コア資本比率、当社のトップクラスの総資本および資金構造、当社の質の高いバランスシートは、当社が世界で最強の銀行の一つであることを裏付けています。2012年のSNB金融安定性報告書の手法と大まかに相当する手法を用いることにより、当社のルックスルーの総資本比率は年末までに、SNBの報告書に記載されている2012年第1四半期の5.9%の約2倍となる、10.8%になると予想しています。これは堅調でバランスのとれた資本イニシアチブであり、そのうち80%近くが希薄化しないものです。過去5年間にわたり、またこれらの措置以前にも、当社は株主への希薄化を最小限に抑え、業界で最高の資本水準を維持しています。」

## 2012年第2四半期業績の概要

クレディ・スイス・グループの2012年第2四半期の税引前利益は11億CHFとなり、株主に帰属する純利益は8億CHF、株式資本利益率は9%、新規純資産は44億CHFでした。

決算ハイライト			
単位：百万CHF（別途記載がある場合を除く）	2012年 第2四半期	2012年 第1四半期	2011年 第2四半期
公表税引前利益	1,111	40	1,086
基礎的税引前利益	1,148	1,484	1,124
公表純利益 株主帰属ベース	788	44	768
基礎的純利益 株主帰属ベース	815	1,055	787
希薄化後1株当たり利益 (CHF)	0.46	0.03	0.48
株主資本利益率 株主帰属ベース (年換算)	9.2%	0.50%	9.7%
バーゼル2.5 Tier 1比率 (%) (期末)	16.5%	15.6%	14.5%
バーゼル2.5 コア Tier 1比率 (%) (期末)	12.5%	11.8%	10.2%
1株当たり簿価合計 (CHF)	27.10	27.43	26.03
1株当たり有形簿価 (CHF)	20.13	20.41	19.21
Finma レバレッジ・レシオ (バーセル2.5)	4.7%	4.7%	4.4%

**プライベート・バンキング部門**の2012年第2四半期の純収益は27億400万CHF、税引前利益は7億7,500万CHF:

- 収益は、金利収入と経常収益の両方が貢献し2012年第1四半期比で若干増加
- 2012年第1四半期のPAF2の影響を含む従業員報酬および手当の減額、効率化の主な恩恵は年後半に実現する見通し
- 税引前利益マージンは29%
- プライベート・バンキング部門の新規純資産は34億CHF
  - ウェルス・マネジメント顧客事業の新規純資産流入は、クラリデン・ロイ関連の34億CHFの流出を除き、89億CHF
  - コーポレート&インスティテューショナル顧客事業は21億CHFの資産流出
- クラリデン・ロイの統合は現在までにほぼ完了し、当グループへの1億2,500万CHFの税引前利益は2013年に実現の見込み

**インベストメント・バンキング部門**の2012年第2四半期の純収益は29億900万CHF、税引前利益は3億8,300万CHF

- 戦略執行の大きな進展により、より一貫したパフォーマンスと継続的な市場シェア拡大のモメンタムを達成
- 債券フランチャイズのポジションを刷新し、よりバランスのとれた事業モデルを実現；リスクおよび在庫レベルは引き続き抑制
- 株式営業とトレーディング収益は顧客活動の低下を反映；市場を主導する地位を維持
- 引受とアドバイザリーの業績は、業界を通じた取引高低下を反映、世界的なM&A成約での2位の順位を維持
- 業務面と資本面の効率向上により、年率換算の経費ランレートの2011年上半期比16億CHF減少、2011年第2四半期末以来バーゼル3リスク加重資産は38%減少
- 2012年上半期のバーゼル3配分資本利益率は12%、2011年上半期の8%より上昇

**アセット・マネジメント部門**の2012年第2四半期の純収益は5億5,000万CHF、税引前利益は1億3,300万CHF

- アバディーン社持株の一部売却益6,600万CHF、パフォーマンス・フィーの増加が、困難な市場環境を反映した投資関連利益の減少により相殺
- オルタナティブ投資、特にエマージング市場への投資に牽引された新規純資産は、4億CHFとなり、伝統的投資の流出により一部相殺
- 2012年7月2日にクレディ・スイス・グループはアバディーン・アセット・マネジメントに対する残りの持分の売却を完了し、約1億4,000万CHFの利益を取得。2012年第3四半期に計上予定。

### 経費節減策

2012年上半期に2011年上半期比で20億CHF（年換算）のコスト削減を達成したため、クレディ・スイスは2013年末までの経費節減目標を30億CHFへ引き上げました。

クレディ・スイスは、2013年末までに合計で20億CHFのコストを節減することを目標に、2011年に数々の経費効率化対策を実施しました。我々は、これらの対策の実施を加速させ2012年上半期にすでに20億CHF（年換算）を達成しました。2012年第2四半期には、コーポレート・センターにおける関連再編コストとして1億8,300万CHFを計上しました。

クレディ・スイスは、2013年末の経費節減目標を総額30億CHFへ引き上げました。追加の10億CHF

の経費節減には、シェアド・サービス全般の5億ドルの節減が含まれます。プライベート・バンキング部門には4億5,000万CHF、インベストメント・バンキング部門には5億5,000万CHFの節減目標が設定されました。その他の再編コストは約5億2,500万CHFとなる見込みであり、このうち2億2,500万CHFが2012年後半に計上される見込みです。

### 資本管理の概要

現在の規制および市場環境に照らし資本基盤の強化を加速するため、クレディ・スイスは本日、いくつかの対策を発表しました。資本を87億CHF増加するためのいくつかの対策が実行されます。追加の資本対策と収益関連の影響によって、2012年末までにさらに66億CHF増加されます。

これらの対策の結果、予想される2012年末のルックスルーのスイス国内コア資本比率は、2018年要求事項の10%に対して9.4%となります。ルックスルーのスイス国内コア資本には、ルックスルーのバーゼル3普通株等Tier 1資本(CET1)およびバーゼル3G-SIB普通株等Tier 1資本(CET1)比率8.5%を超過する、スイス株式に関する要件の一部として適格性を有する既存の出資証券(「クラウディウス債」)が含まれます。

この対策により、2012年末の予想されるルックスルーのスイス国内総資本比率は10.8%となります。これは、2012年第1四半期末にスイス国立銀行(SNB)によって計算された2012年金融安定性報告書に公開された5.9%の数字と大幅に異なります。ルックスルーのスイス国内総資本には、ルックスルーのバーゼル3 CET1 および出資証券(「クラウディウス債」)が含まれます。さらに、それは当グループのバッファ・キャピタル・ノート(「ハイトリガーCoCos債」)も含まれます。

本プレス・リリースにおいて用いられる規制資本の定義と該当する各比率は、FINMAにより決定されるスイスの「大きすぎて潰せない(too-big-to-fail)」体制に基づく規制を参照しています。これらの資本定義に基づく比率の計算は、2012年末の想定バーゼル3リスク加重資産を用います。2012年末の想定比率は、発表された資本対策の成功を想定するプロフォーマの計算に基づき、ブルームバーグによるコンセンサス収益予想とクレディ・スイスのバーゼル3リスク加重資産予想を用いています。バーゼル3は2013年1月1日までは導入されないため、当銀行のバーゼル3リスク加重資産は、当リリースのために現行の草案および当該草案に関する弊社解釈に基づき適切な仮定を行った上で算定したものです。バーゼル3導入後に要件が変更された場合には、本プレス・リリースの数値とは異なる結果になることが予想されます。

資本対策には、1株16.29CHFの固定転換価格で発行される38億CHFの強制偶発転換型証券が含まれます。強制偶発転換型証券(「MACCS」)の投資家にはカタール・ホールディング・エルエルシー、ザ・オラヤン・グループ、ノージェス・バンク・インベストメント・マネジメントなどの既存の投資家、およびシンガポール・ベースの投資会社であるテマセクなどの新規投資家が含まれます。

クレディ・スイスは引き続き保守的な方法で流動性を管理します。2012年第2四半期末の安定調達比率(NSFR)は100%を超えるものと予想しています。

ルックスルーとは2012年末にバーゼル3規制への移行が完了すると仮定した場合の数値です。実際には、これらの規制は今後5年間で段階的に移行されます。

資本を 87 億 CHF 増加するために即時に行う対策

資本インパクト 単位 十億 CHF	資本対策
1.7	ハイブリッド債の転換：既存 Tier 1 キャピタル・ノート（ハイブリッド債）の一部のハイトリガーのバッファ・キャピタル・ノート（BCNs）への転換を加速、転換フロアは強制転換型証券の強制転換価格と揃える
3.8	強制転換型証券：2013 年 3 月に 2 億 3,400 万株へ転換、全て戦略的投資家が引き受け、その配分は部分的には株主の取得権応募の引受状況次第。残存の Hedging-Griffo 少数保有分 3,400 万株についての購入を含む（2012 年第 1 四半期の発表のとおり）
2.3	Tier 1 資本出資証券：Basel III G-SIB 普通株等 Tier 1 資本（CET1）比率を超過してスイス・コア資本資本に寄与することで、スイス資本要件の一部として適格となる
0.2	アバディーン：アバディーン・アセット・マネジメントに対する残り 7% 持分の売却は 2012 年 7 月 2 日に完了
0.7	限度額規制控除分の削減：資本対策によって入手可能な CET1 資本が大幅に増加し限度額が減額される
<b>8.7</b>	<b>即時対策からの影響総額</b>

2012 年末までにさらに 66 億 CHF 増加するための資本対策と収益関連の影響

資本インパクト 単位 十億 CHF	資本対策
0.75	APPA 転換：申込み期間は 2012 年 7 月 18 日から 27 日の期間を予定、転換はその後。資本本へ即時に恩恵をもたらす
1.1	戦略的売却：アセット・マネジメント部門の代替投資をより流動性の高い戦略へ向ける戦略の実行加速と足並みを揃えるもの
0.5	不動産売却：既存の 2012 年不動産売却プログラムの完了
1.95	持分変動：2012 年下半期の純利益はコンセンサス予想に合致すると想定；追加の再編費用および資本計画取引費用を含む；株式報酬付与の義務からの資本給付を調整；営業純損失に対する繰延税資産関連の削減を反映
2.3	減額の減少：限度額の減額と営業純損失に対する繰延税資産の追加減額の減少
<b>6.6</b>	<b>2012 年末までの追加対策の影響総額</b>

## 部門別業績詳細

### プライベート・バンキング部門

グローバルベースのウェルス・マネジメント顧客事業とスイス国内のコーポレート&インスティテューショナル顧客事業から構成されるプライベート・バンキング部門は、2012年第2四半期において、純収益27億400万CHFおよび税引前利益7億7,500万CHFを計上しました。

純収益は金利収入と半年毎のパフォーマンス・フィーを含む経常手数料/フィーの増加を反映し、2012年第1四半期比で1億CHF増加しました。トランザクション・ベース収益は引き続き低迷する顧客活動によりマイナスの影響を受けましたが、非中核業務の売却による4,100万CHFを含むクラリデン・ロイの統合による利益により相殺されました。7,200万CHFの不動産売却益が含まれた2011年第2四半期に対して、純収益は2%減少しました。

営業費用合計は、前四半期および前年同期と比べてわずかに減少しました。従業員報酬および手当は、2012年第1四半期中に付与され、支出されたPAF2繰延報酬が含まれた前四半期に対して、8,700万CHF、すなわち7%減少しました。貸倒引当金繰入額は正味債権ポートフォリオ2,020億CHFに対して3,900万CHFでした。

**ウェルス・マネジメント顧客事業**の当四半期の税引前利益は5億5,100万CHFで、前年同期比5%の減少減でした。営業費用合計の減少と純利息収益の増加が、経常手数料収益とトランザクション・ベース収益の低下および貸倒引当金繰入額の増加により相殺されたためです。売却益を除外すると、ウェルス・マネジメント顧客事業の税引前利益は前年同期に対して安定していました。2012年第1四半期比で、グロス・マージンは4ベース・ポイント改善しました。

**コーポレート&インスティテューショナル顧客事業**は、スイス国内のコーポレート&インスティテューショナル顧客および世界中の銀行からのニーズに対応した包括的サービスを提供していますが、2012年第2四半期の税引前利益は2億2,400万CHFとなり、前年同期比で13%低下しました。安定した純収益は営業費用合計の5%の増加により相殺されました。2012年第1四半期比では税引前利益は2%増加しました。

### インベストメント・バンキング部門

インベストメント・バンキング部門の2012年第2四半期の税引前利益は3億8,300万CHFで、2012年第1四半期を62%下回ったものの、前年同期を84%上回りました。当四半期の純収益は29億900万CHFでした。

債券セールス&トレーディング業務の収益は11億9,000万CHFで、困難な市場環境の最中であっても柔軟性に富み、業務バランスの改善も見られました。これは、大幅なポジショニングの見直し、在庫レベルの大幅な低減を図ったことを反映するものです。収益は、好調であった2012年第1四半期に比べ減少しましたが、これは、とりわけグローバル金利における困難なトレーディング状況および顧客フローの沈滞化によるものです。収益は、前年同期比で96%増となりましたが、これは、証券化商品の業績の顕著な改善と、企業融資、グローバル金利、エマージング市場およびグローバル・クレジット商品の各事業の業績向上によって牽引されました。

株式セールス&トレーディング業務の収益は11億5,000万CHFを計上し、2012年第1四半期比18%減、前年同期比8%減となりました。これは、キャッシュ・エクイティおよびデリバティブのような主要事業全体にわたる顧客件数の減少によるものです。プライム・サービスの業績は引き続き好調で、これは、強固な市場シェアが、業界活動の低迷、ならびに時価の減少による顧客バランスの低下といったマイナスの要因を相殺する以上の力を発揮したためです。

引受およびアドバイザー業務の2012年第2四半期の収益6億4,400万CHFも、2012年第1四半期、前年同期の双方の実績を下回るものとなりましたが、これは、グローバル起債件数が引き続き低調であったことによる引受業務収益の低迷によるものです。

報酬および給付は2012年第1四半期の実績を30%下回りましたが、これは、繰延報酬関連費用の減少（2012年第1四半期にはPAF 2報酬付与関連費用4億1,800万CHFが含まれていた）および裁量的業績連動報酬関連費用の減少によるものです。営業費用合計は、2012年第1四半期、前年同期を、それぞれ下回りました。

当四半期中、インベストメント・バンキング部門の戦略をさらに洗練し、実行したことにより、バーゼル3リスク加重資産残高は、40億米ドル減少し2,060億米ドルとなりました。

当四半期の業績は、前年同期に比べ、対スイス・フラン米ドル平均相場の高止まりによって影響を受けました。これは、収益面には有利に働きましたが、費用面では不利に働きました。スイス・フラン換算ベースでは、純収益は3%増加し、営業費用合計は2%減少しました。これに対して、米ドル換算ベースでは、2011年第2四半期より純収益は6%減少し、営業費用合計は11%減少しました。

#### アセット・マネジメント部門

アセット・マネジメント部門の2012年第2四半期の税引前利益は1億3,300万CHFで、2012年第1四半期を48%、前年同期を37%それぞれ下回りました。純収益は5億5,000万CHFで、2012年第1四半期を19%、前年同期を16%それぞれ下回りました。

当四半期中に、アバディーン・アセット・マネジメント社の追加的な部分売却手続きが完了し、6,600万CHFの売却益を計上しました。2012年第1四半期には、別件の売却から1億7,800万CHFの利益を計上しています。第1、第2四半期に計上されたこれらの事業売却益を除いた税引前利益は、第2四半期が6,700万CHF、2012年第1四半期が7,600万となった（2011年第2四半期は2億1,000万CHF）。

投資関連利益は2,700万CHFで、2012年第1四半期の1億100万CHF、前年同期の1億5,600万CHFをそれぞれ大幅に下回りました。これは主として不利な市場環境によるものです。手数料ベース収益4億7,800万CHFは前年同期を3%下回りましたが、これは、ヘジシング・グリフォ社の資産運用手数料収入の増加が、アバディーン社の売却による資本参加の減収、およびプレースメント手数料の減収によって相殺されたことによるものです。当四半期の営業費用合計は4億1,700万CHFで、2012年第1四半期比2%減（上述のPAF2報酬付与関連費用を含む）、および前年同期比6%減となりました。

#### 部門別業績

単位:百万CHF

		2012年	2012年	2011年	2012年	2011年
		第2四半期	第1四半期	第2四半期	第1四半期	第1四半期
					からの増減率	からの増減率
					(%)	(%)
プライベート・ バンキング	純収益	2,704	2,604	2,754	43	(2)
	貸倒引当金繰入額	39	40	(2)	(3)	-
	営業費用合計	1,890	1,958	1,921	(3)	(2)
	税引前利益	775	606	835	28	(7)
インベストメント・バンキング	純収益	2,909	4,159	2,817	(30)	3
	貸倒引当金繰入額	(14)	(6)	15	133-	-

	営業費用合計	2,540	3,167	2,594	(20)	(2)
	税引前利益	383	998	208	(62)	84
<b>アセット・</b>	純収益	550	681	654	(19)	(16)
<b>マネジメント</b>	貸倒引当金繰入額	-	-	-	-	-
	営業費用合計	417	427	444	(2)	(6)
	税引前利益	133	254	210	(48)	(37)

### コーポレート・センター

コーポレート・センターは2012年第2四半期に、自社債関連の3,900万CHFの利益も含めて税引前損失1億8,000万CHFを計上しました。2012年第1四半期は18億1,800万CHFの損失、2011年第2四半期は1億6,700万CHFの損失でした。

### 新規純資産

クレディ・スイス・グループの2012年第2四半期の純資産流入は、440億CHFでした。プライベート・バンキング部門は、34億CHFの新規純資産を獲得しました。この内、ウェルス・マネジメント顧客事業は新規純資産89億CHFを貢献しましたが、これは主に超富裕顧客部門と新興市場分野からの流入によるもので、クラリデン・ロイ統合関連の34億CHFの流出額考慮前の数値です。スイス国内のコーポレート&インスティテューショナル顧客事業は21億CHFの資産流出がありました。アセット・マネジメントは新興市場分野でのオルタナティブ投資が牽引し、伝統的投資の流出により一部相殺されたものの4億CHFの純資産流入でした。

クラリデン・ロイの統合とその他の組織再編の結果、有意義な傾向を示すため、各部門の従前の財務報告は再表示され、現在の表示方法に合せています。

### 資本対策の詳細

#### ハイブリッド債の転換：

一部の既存Tier 1 キャピタル・ノート（ハイブリッド債）を、Tier 1 バッファード・キャピタル・ノート（BCN、「ハイトリガー偶発資本債（CoCos）」に即時転換することで合意し、これによって、2013年10月を目処とした当初の変換スケジュールを加速化することになりました。BCNは、スイス・トータル・キャピタルの適格商品となります。高トリガーTier 1 キャピタル・ノートの転換フロア値は、強制転換型証券の転換価格と整合化しています。

#### 強制偶発転換型証券（MACCS）

MACCSは、2013年3月に、1株当たり16.29 CHFの固定転換価格で2億3,350万株の普通株式に強制的に転換されます。このうち、1億1,700万株への転換分は、株主の新株引受権を条件とし、戦略的投資家によってすべて引受けられました。一方、戦略的投資家は、残りの1億1,650万株への転換についても拘束力のある約定を締結しています。

#### Tier 1 資本参加証券の認識

クラウディウスは、クレディ・スイス・グループ AG の100%子会社であるクレディ・スイス AG によって発行された資本参加証券を保有しています。クラウディウスは、次の米ドル建て債券を投資家に発行しています。(i) 無期限債券15億米ドル、利率8.25%、および(ii) 無期限債券15億米ドル、利率7.875%。スイス金融市場監督当局（FINMA）の規則では、スイスの「大きすぎて潰せない（too-big-to-fail）」体制の下、Tier 1 資本参加証券における既存の30億米ドル（20%のヘアカット（元本減免））を、バーゼル3 G-SIB 普通株式等 Tier 1（CET 1）比率8.5%を超えたスイス株式に関する要件の一部として適格性を有するとしています。これは、2018年まで、非減少ベースで、スイス国内コア資本比率に追加の0.8%を効果的に貢献します。



### アバディーン・アセット・マネジメントに対する残りの持分の売却

クレディ・スイス・グループは、2012年7月2日に、アバディーン・アセット・マネジメントに対する残りの持分の売却を完了し、資本利益2億CHFを計上しました。

### APPA 株式転換：従業員を対象とした任意転換募集

クレディ・スイスは、現在、任意株式転換募集プログラムの導入を進めています。これによって、従業員は、調整可能業績プランに基づく給付 (Adjustable Performance Plan Awards : APPA) から今後受ける現金の支払いを、MACCSに基づく転換価格と同価格で株式に転換するオプションを選択できるようになります。当該転換には、クレディ・スイスの資本を即時に増加させる効果があります。株式の交付は、APPA 繰延スケジュール、すなわち2013年から2015年の期間と一致します。APPAは、2009-10年に付与された現金ベースの繰延報酬プランで、付与価格は、従業員の業務分野の財務業績と当社の株主資本利益率に連動していました。2012年末の支払債務を13億CHFと想定すると、当初の資本転換募集益は、7億5,000万CHFと見込まれています。2012年末の支払債務を13億CHFと想定した場合の当初の資本転換募集益の目標を約7億5,000万CHFとします (受容率58%を意味します)。資本利益の実際の規模は、転換募集の受容率と2012年下半期の業績によって異なります。

### 戦略的売却

より流動的なオルタナティブ事業に向けての当社の戦略の実現の加速化と一致して、また「ボルカー・ルール」の実現を巡る不確実性を鑑み、クレディ・スイスは、アセット・マネジメント部門内の一部の特定非流動型プライベート・エクイティ事業を売却する予定です。これらの売却対象事業は、グループ内のその他の事業との相乗効果が限定されています。同時に、クレディ・スイスは、より資本効果の高い、流動的な代替戦略を促進し、規制の変化に合わせてグループのその他の事業との相乗効果を高めることを目標としています。

### 不動産の売却

クレディ・スイスは、2つの主要な不動産用地と複数の建物物件の完全売却の交渉を進めております。加えて、現在所有、占有しているオフィスビル1棟について売却・リースバック取引契約を締結する予定です。

### 株式における変化

2012年通期の収益のシミュレーションの目的のために、純利益の予想を、ブルームバーグの2012年のアナリスト概算コンセンサスに基づいて算定し、そこから、すでに発表した2012年上半期の純利益を差し引きました。この結果得られた2012年下半期の純利益概算を、リストラクチャリングの追加費用、本資本計画の取引フィー、特定債務証券の買戻しを目的とした予定公開買付けからの資本利益をそれぞれ控除することによって調整しました。これらの収益予想は、保証または立証されたものではなく、説明目的のみに使用しています。実際の純利益 (およびその結果としての2012年末の実際の資本比率) は、ここで説明したものと大幅に異なる可能性があります。

株式ベース報酬関連費用は、株主資本において、株式交付義務によって相殺されます。2012年下半期の株式ベース報酬関連費用は、6億CHFと予想されます。将来の株式交付義務が、条件付資本からの新規株式の交付と合致すると想定すると、このような利益は、資本への永久的に追加されるものとみなすことができます。\*

2012年下半期の税引前利益および一定の追加対策により、純営業損失に対する現在の繰延税金資産 (DTA) レベルは減少するものと予想されます。2012年第2四半期末現在の純営業損失に対するDTA額は、35億

CHF でした。純営業損失に対する DTA のような将来の収益力に依存する DTA は、CET 1 資本から控除されなければなりません。

#### 限度額規制控除分の削減

(i) タイミングのずれによる DTA、(ii) 連結対象外の金融機関に対する大型投資、または (iii) CET 1 資本の 10% を超えるサービシング権利の各項目から生じた金額は、CET 1 資本から控除されなければなりません。さらに、(i) から (iii) までの 3 項目の合計金額が CET 1 資本の 15% を超えた場合、当該超過金額を CET 1 資本から控除しなくてはなりません。資本対策により予測 CET 1 資本が増加し、これに伴い現在の限度額規制控除が後で控除されます。

#### 追加の債務管理措置の発表（7月18日）：一定の発行済み公開資本および先順位資金調達証券の買戻しのための公開買付け

本日発表した資本対策に加え、クレディ・スイスは、一定の発行済み公開資本と先順位資金調達証券の買戻しを目的とした公開買付けも発表しました。公開買付けの対象証券は、米ドル、ユーロ、英ポンド建ての 11 種類の資本調達証券と 5 種類の米ドル建て追加的な先順位債券です。公開買付けは、クレディ・スイス・セキュリティーズ（ヨーロッパ）リミテッドが 2012 年 7 月 18 日付で発行した「公開買付け覚書」に定める条件に基づいて実施していますが、公開買付け制限を受けることがあります。これによって、クレディ・スイスの社債投資家は、保有する出資証券および先順位資金調達証券を売却することができます。今回発表した取引は、2012 年 4 月に、好結果に終わった債務管理取引に次ぐものです。

クレディ・スイス・グループの 2012 年第 2 四半期業績のニュース・リリース完全版は、2012 年 7 月 24 日午前 6 時 45 分（中央ヨーロッパ夏時間）に公開する予定です。

注) \*\*株主総会の承認を必要とします。